

今林裕子(福岡女大学)

「目的」 公共水域が清流となっている観光地や自然保護公園地区などにおいては特に環境受容の点で最も重要な要因として生分解性のよい洗剤の使用が望まれている。N-アシルアミノ酸(L-Lauroyl-L-Glutamic acid、LSと略)系界面活性剤について山林よりの湧き水(河川水)の全シーズンの水質特性を調べてその水中に於ける汎用されているLASとの生分解比較試験を行った。その結果水質特性との関連性と生分解性が分かったので報告する。

「方法」 River die away 方法に基づいて、1次分解、究極分解を測定した。河川水は人為的に汚染が進行していない上流域の湧き水を使用した。

「結果」 LSはLASに比較して全シーズンにわたって1次、究極分解ともに非常に優れていた。冬期の低水温下では春期と比べて分解は進んだ結果となった。この年は7月からの異常気象でTOCの上昇、DOの減少等の水質特性からみると汚濁が進行していたのが原因である。LASはすべての条件で馴化の誘導期間が認められ分解が長期化した。LSはすぐ生分解が生じた。しかし、生分解がすぐれているLSでも冬期の低水温下では一次分解に日数を要した。